

違うぞ同じ賭博でも！ カジノと競馬・宝くじ

「宝くじや競馬、競輪も賭博。お金を賭けて、当たれば儲け、外れたら損。カジノも同じ」と云う人がいる。

ところが、カジノと宝くじや競馬競輪には大きな違いがある。

公営ギャンブルでは

宝くじ競馬競輪は払われた賭け金の一部を都道府県等が受け取り、残りを賭けた人で分け合う。宝くじなら一等からX等までに当たった人が貰う。競馬なら勝つ馬を予想して当たった人が貰う。主催の都道府県が損することはない。

カジノでは

しかし、カジノではカジノ業者とお客との勝負。お客はルーレットで玉が入る番号を予想。賭け金(実際には

チップ)をその番号の所に置く。細かいルーはあるが、外れたらカジノ業者がそれを取り、当たったらカジノ側はその何倍かを払う。

だからカジノ業者としては大金を張られて当てられたら大変。

ルーレットを回すディーラーは「どの番号に玉を入れるか、操作できる」と云われる。ネット上ではどのカジノ関係のHPにも「そんな事は出来ない」と書いてある。「出来る」なんて書いたら大変だ。でも元ディーラーが「百%ではないが目的の番号の近くに入れる事は出来る」と云っている。

「カジノに行くとし儲けさせてくれ、やがて大金を賭けるようになる」と、途端に大負け」という話を聞くのはこんな裏があるから？ あなたはどう思われますか？

豆相人車

神奈川県足柄下郡湯河原町宮上
二〇一九年十月



明治に日本の鉄道建設は飛躍的に進められた。一八八九年(明治二二年)には横浜方面から国府津、現在の御殿場線を経て浜松まで開通した。

この東海道線の開発に取り残されたのが小田原や熱海。

国府津から小田原までは馬車鉄道ができた。

しかし、温泉保養地の熱海に行くには歩いて行くか、駕籠か人力車に頼るしかなかった。

そこで一八九六年(明治二九年)人が押す人車鉄道が作られた。

小田原熱海間を駕籠で六時間の所が、四時間短縮されたという。

長さ一・三mの車両に片側三人で肩を寄せ合い合計六人乗り。それを二・三人の車夫が押した。急な坂ではお客も下りて一緒に押すというのどかな風景も見られたという。

